平成30年度 富里歴史講座　　於：富里市立図書館　２０１８・７・１５

第1回「甦る末廣農場(1)」

～ 富里から世界を見た男 橘常喜 ～

林 田 利 之

１．末廣農場での暮らし

橘常喜氏が欧米諸国の研修旅行に出掛けた話をする前に、末廣農場での生活がどのようなものであったかについて見てみることにしましょう。

まず、もともと末廣農場の場長官舎（**図１**）は現在の消防署の近くにあったことが橘田鶴子氏からの聞き取りによってわかっており、久彌の別荘が建築される以前には、この場長官舎が末廣農場の主要な建物だったようです。そこでの暮らしぶりを伝える写真が橘家には残されていました。

写真の多くは撮影年月日が不明ですが、いくつかの写真には年月日が記されており、まとめて保存されていたことから考えて大正初期から昭和初期に撮影されたものと考えられます。当時カメラは高級品であることから、この時期、富里で写真が撮影されていたことだけでも驚きですが、近代史研究の一級資料としても大変価値があると言えます。

さて、橘常喜氏のご息女である橘田鶴子氏からお聞きした話を基に、当時の農場での様子を見てみることにしましょう。末廣農場は七栄地区に作られた広大な農場であったことはこれまでも触れてきましたが、それ故、七栄の集落からは離れた場所に橘家はあったといえます。このことから、農場長の官舎周辺には、農場で働く作業員さんの住む長屋が数軒あっただけであり、非常に寂しい状態であったと語られています。

図１　場長官舎跡地

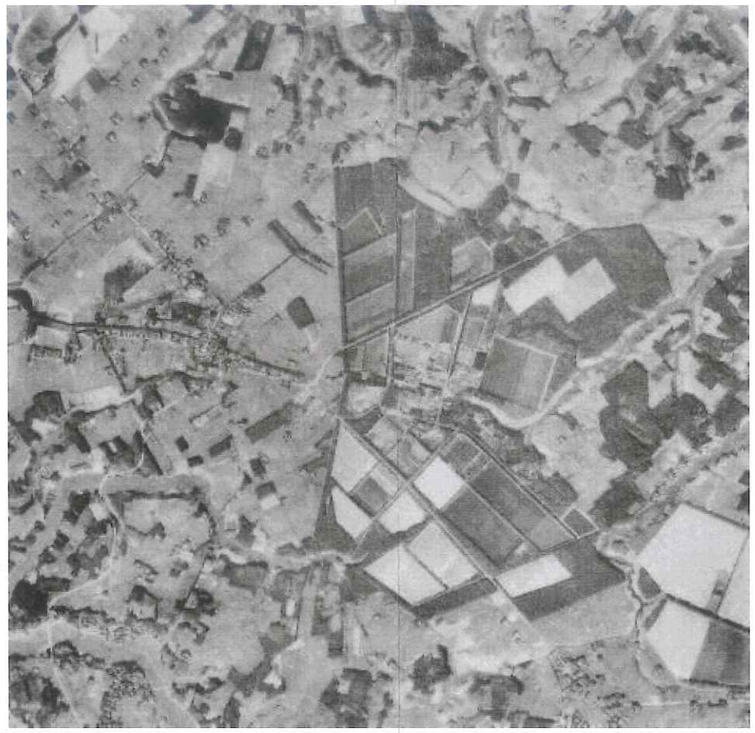

図２　末廣農場の航空写真（昭和２１年米軍撮影）

図３　官舎の庭で（撮影年月日不明）

図４　大正 12 年　関東大震災後のテント生活